

【特 集】

ウェルビーイングを考える

ウェルビーイング指標に基づいた自治体政策の展開

子どものウェルビーイングの実現に向けて

高齢期のウェルビーイングを考える

地域のつながりとウェルビーイング

公園からのウェルビーイングな街づくり

【トピックス】

豊中市民の「幸福度」を調査

——くらしの豊かさ実感に関するアンケートから——

ウェルビーイング（Well-being）とは「身体的・精神的・社会的に良好で満たされていること」を意味する言葉である。「幸福」と同義に使われることもあり、経済的に豊かであるなど客観的な側面のみならず、人々の主観的な幸福感も含めた「よく生きること」を総合的に表す概念として、近年注目を集めている。

日本政府でもここ数年にわたって「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」にて人々のウェルビーイングの向上に言及がなされている。これと前後して、個別に地方自治体での主観的・客観的ウェルビーイング指標の活用促進の動きが進んだほか、国のデジタル庁の主導により、全国の自治体が参加しての「地域幸福度（Well-being）指標」の活用も進められている。いま、人びとの「幸せ」を測定し、政策に活かすことが求められることの背景、そしてその事例にはどのようなことがあるのだろうか。

今号の特集では、上に述べた状況を鑑み、ウェルビーイング指標に基づいた自治体政策の展開、少子高齢化が進む現代社会においてキーとなる子どものウェルビーイング、高齢者のウェルビーイング、そして地域社会が生み出すウェルビーイング、また都市において自然との触れ合いからウェルビーイングをもたらす公園という5つのテーマを設定した。本特集への導き手でもある巻頭言と合わせ、これらのテーマについて有識者による解説を通じてウェルビーイングと都市政策について考えていく。

また特集に関連するトピックスとして、令和6年度（2024年度）にとよなか都市創造研究所が実施した「くらしの豊かさ実感に関するアンケート」の結果について、豊中市民の幸福度をテーマとしてその概要を報告する。